

第7回WEBアンケート調査結果

1 アンケート調査名	「性的少数者(性的マイノリティ)」に関するアンケート
2 アンケート調査期間	平成27年12月25日午前10時～平成28年1月10日午後5時
3 回答者数	854 人

Q1: 性的少数者についてお聞きします。
「性的少数者(性的マイノリティ)」または「LGBT」という言葉(両方またはどちらか一方)を知っていましたか。

(1つだけ)(入力必須)

言葉も意味も知っている	654	77%
言葉は知っているが、意味は知らない	112	13%
知らない	88	10%

Q2: 平成27年4月に調査機関が実施した調査においては、性的少数者は、13人に1人(7.6%)との結果が出ましたが、どう思いますか。

(1つだけ)

多い	278	34%
どちらかと言えば多い	396	48%
どちらかと言えば少ない	119	14%
少ない	34	4%

Q3: あなたの周りに性的少数者の方はいますか。

(1つだけ)

いる	229	28%
いない	261	31%
わからない	340	41%

Q4: 現在、性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害により、生活しづらい社会だと思いますか。

(1つだけ)(入力必須)

そう思う	315	37%
どちらかと言えばそう思う	365	43%
どちらかと言えばそう思わない →Q6へ	107	13%
そう思わない →Q6へ	67	8%

Q5: そのように思う理由は何ですか。

(いくつでも)

いじめ(悪口、いやがらせなど)を受ける	358	9%
自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される(トイレ、着替え、服装、言葉遣いなど)	438	11%
申請書などの性別の記入	296	8%
家族、友人などに相談相手がいない	278	7%
カミングアウトした後の周囲の態度の変化	342	9%
周囲の人の理解が得られない	444	11%
偏見・差別	467	12%
就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受ける	281	7%
同性のパートナーとの関係を認めてもらえない	346	9%
法整備などが不十分	359	9%
行政機関などの相談・支援体制が不十分	279	7%
その他 ※P4参照	32	1%

Q6: 性的少数者に関する社会的な意識が高まっていると思いますか。(例えば、様々な自治体の動き、理解促進のための講演会や当事者のパレードを見聞きすることが増えたなど)

(1つだけ)(入力必須)

そう思う	182	21%
どちらかと言えばそう思う	450	53%
どちらかと言えばそう思わない	153	18%
そう思わない	69	8%

Q7: あなたの身近な方(家族、友人など)が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができますか。

(1つだけ)

できる	462	54%
できない	53	6%
わからない	339	40%

Q8: 学校や職場内の人が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができますか。

(1つだけ)(入力必須)

できる	518	61%
できない	48	6%
わからない	288	34%

Q9: 性的少数者に関する偏見がなくなり、性的少数者の方が生活しやすくなるためにはどうするべきだと思いますか。

(いくつでも)

ありのままの姿、考え方を受け入れる	543	30%
コミュニケーションを図る	340	19%
行政が制度や環境の整備を図る	379	21%
イベントや講座を開催し、理解を深める	205	11%
啓発パンフレットの配布	147	8%
何もする必要はない	96	5%
わからない	67	4%
その他 ※P5参照	60	3%

Q10: 渋谷区や世田谷区が実施している、同性パートナーシップ(同性カップル)の証明書の交付や宣誓の取組み*を千葉市でも実施する必要があると思いますか。

* 同性パートナーシップの証明書の交付や宣誓の取組み: 性的少数者の人権を尊重し、同性カップルの存在を認めることや住宅の賃借、入院中のパートナーへの面会など、事業者へ配慮を促すため、パートナーシップ証明などを行う制度

(1つだけ)(入力必須)

必要	465	54%
必要ない	200	23%
わからない	189	22%

Q11: 性的少数者に関して、お考えをお聞かせください。

(自由記述)

※P7参照

選択肢 その他の記載内容(一部抜粋)

Q5 そのように思う理由は何ですか。

行政や民間が「女性専用」「女性限定」をあたかもよいことのように扱いMtFの人たちが傷ついているから。また近年は広告代理店がLGBTなる言葉を流行らせようとしている。13人に1人というデータも広告代理店が出した数値のはず。
海老名市議会議員のように権力の側に立つ者が公然と「異常」発言を行うなど。「自分は異常ではない」と思える当事者でも傷つき、「自分は異常かもしれない」と悩んでいる当事者ならなおさら生きづらくなる。
私自身性的マイノリティの一員ですが母親からはあまり理解されておらずほとんど絶縁状態です。家族と絶縁している性的マイノリティの人たちは沢山いると思います。世間に認められれば少しは和らぐと思います。
教育現場でLGBTの存在が無視されすぎている。LGBTの子どもがいることが考えられていない。教育の中で正しい理解を教える場がなく間違ったイメージや偏見をうえつけている。メディアの影響が大きい。
最近の議員たちの発言などから特に年配の人たちが悪意を持って公にあたかもLGBTが病気かのように話しそれを許しているような社会である点。自分が自分らしく生きられない点。
自身の性自認の服装で役所免許更新パスポート申請などの公的手続きをする場合毎回本人確認をされる等公的機関に於いても理解が進んでいるとは感じられません。
性適合手術を受ける際やその後のメンテナンス人工受精等を利用するの任活などへの援助が足りない。また上記の手術等を請け負ってくれる病院も少ない。
婚姻ができれば自営業者でも家族の青色申告ができるがいつまでも他人のままです。そういった控除も受けられない。
実際のところは生活しづらい社会かどうかは分からない。マイノリティにしか分からない不便さがあるのでは。
一人一人が他者の違いを受け入れる受け止める器が小さい事をお互いに分かっているためではないでしょうか。
教科書の教材に異性愛/同性愛/無性愛/トランスジェンダーなどの物語が解説以外で取り上げられていない。
社会的に騒ぎすぎ。全く個人の問題なので行政まで介入するのは行き過ぎ。政治的に利用されている様だ。
住まいを探すのに苦労する。(男性の同性カップルだとアパートを借りるのが大変と聞いたことがある。)
支え合う仲間を見つけにくい(見た目で見えないためどうにか大なり小なり開示する必要がある)
(トイレ更衣室など)世の中男か女しかいない前提で作られているので大変なんだろうなと思う。
教育実習生などの立場が弱く実習中に受ける必要のないストレスを強く受けてしまう。
パートナーと結婚したい財産分与とかいろいろ法律が今の時代に追いついていない。
テレビ等でのセクシュアルマイノリティを揶揄する表現など非常に不快になる
常に性別を意識させられるまたはどちらかの性の選択を強制される環境
一方で理解し差別意識を捨てている人も多いと思う。
ここの特異性が認められない社会になっている。
マイナンバーの性別表示の職場への影響
善意から異性の交際相手を紹介される。
相続や保険制度など
周囲の認知不足

Q9 性的少数者に関する偏見がなくなり、性的少数者の方が生活しやすくなるためにはどうすべきだと思いますか。

同性婚の是非は人権問題ではないと思います。LGBTの方たちにも保障する基本的人権は認められなければ成りませんが同性婚は婚姻制度の趣旨から判断しなければ成りません。女性男性の貞操を守り保護するというのは宇宙を保護することと同じです。男性女性の愛の秩序が宇宙の根本だからです。真の自由は責任制を前提とします。もし責任性がなく個々人の愛の自由だけを主張して実践するならばどんなに大きな混乱が破局が訪れるでしょうか。

このアンケート自体が性的少数者を肯定することを前提としたアンケートに見受けられます。私自身は渋谷区や世田谷区のような条例の制定には反対です。性的少数者と言われる存在自体が自然と逆行する存在であると思います。性的少数者の方が暮らしやすくするにはを論ずるよりそのような思考を持たないようにするためにはどうすべきかを議論する必要があります。

日本は異質なものを排除しがちな社会なのでそれをどうしたら変えられるのかなどは私などにはわかりません。しかし経験的にあまり形式的な啓蒙活動には意味がないような気がします。異質なものを受け入れることつまりは相対的に批判的にものを考える一哲学的思考いわゆるクリティカルシンキングの方法を子供のうちから学ぶことができれば一番いいのかとは思いますが。

中高齢者の認識を変えることは難しいかもしれないが偏見があったとしても態度に示すことはハラスメントだということを周知させるべき。また子供たちにはさまざまな生き方があることを認知させて周囲にそういう子達がいることや自分で選択することを普通に感じる人間になってほしい

小学生のころからセクシャルマイノリティーの人たちがいることを教えるとともに人権についても教える必要が有ると思います。子供達はそういう事を素直に受け入れて理解してもらえらると思います。子供のころから正しい知識を与える事が偏見を無くす事になるのだと思います。

同質社会の否定。人にはそれぞれ個性があり人と違っていることが大切であるということの子供時代から教える教育制度にする。人と違うことをしたらほめてやる教育。学校教育で制服着用を押し付けない教育。など改革が必要。

市民への啓発はとても重要だが、喫緊の課題は行政職員や議員への教育ではないだろうか。「異常と言っちゃいけない」ではなく「異常ではない」ことをしっかり理解してもらおう。良き市政は正しい知識と認識から。

性別による区別のルールの緩和。(制服など) 一般企業の理解。就職活動にも影響があると思われる。友人は性的マイノリティが多いタイを気に入り現地の大学に通い日本でアルバイトから正社員になっていた。

市民への啓発も必要ですが千葉市の職員に当事者がいることを前提に職員が働きやすい取組みをぜひ進めてください。たとえば同性パートナーのいる職員に対する結婚祝い金手当支給など。

人格は人格として尊重しますが、渋谷区や世田谷区が実施している。同性パートナーシップの証明書交付や宣誓の取組みは必要ないです。少数派であり弱者ではないと思います。

マイノリティの方々の存在は認めるがそれを社会のシステムとして取り入れることは別問題である。また社会的に保護することによってより差別を受ける可能性がある。

差別や偏見を含むメディア報道をやめる。(ホモセクシャルやレズビアンをジョークにするなど)そして性別による社会区分けを減らす。(制服性別欄の記入など)

小さい頃からのLGBTへの理解を深めさせるために小学校で麻薬やタバコの害について警察や医療関係者が講義をするようにLGBTの当事者が講義を開く

以前の職場ではLGBTの方と普通に扱い一緒に仕事していた。特別扱いする方が迷惑かと。同じ人間なのだから平等に。考え方や社会性に柔軟性を持って！

性的障害者を全面否定してはならないので配慮は必要だが渋谷区のパートナーシップ条例のような制度を導入する事は決してあつてはならないと思う

性的少数者が発生する生物学的メカニズムや特徴などの調査研究を進め、置かれている社会的実態などと合わせ、正しい知識を普及啓発する。

セクシュアル・マイノリティは自殺リスクも高いので市の自殺対策の事例としてセクシュアル・マイノリティへの対応も特記してほしい

制度整備よりも各職場や個人の意識(差別意識を捨てる身内がLGBTであっても異性との結婚を強要しない等)が大切だと思う。
性だけでなくどんな少数者でも偏見や差別はあると思う。人間の心が広くなるような教育を小学校の時から行う必要がある。
アメリカのように法を変えるしかないと思います。そもそも同性は結婚してはならないという決まり自体おかしい。
普通に一人の人間として尊重する。他の人の価値観をただすべて受け入れる必要はないが考えてみたりするように
子供達に性的少数者について保護者と一緒になって考えられるようなイベントなどがあつたら良いと思います。
偏見については市民各自の人格によるものであると思う。今以上の社会的な保護などの必要はない。
男性用女性用が用意されている施設に全てMtFFtM用の物を用意するしかないのでは。
他人からの評価を必要としない社会の実現。他人からの評価を求めない自立した精神の獲得
社会的にどうこうする問題ではない。敢えて言えばカウンセラーの紹介等に留めるべき。
当事者の縦横のつながりを自治体や行政がバックアップする。
性的少数者の存在は認識するが社会的に保護などはと思います
若い人より年配の人にどう説明するのが課題だと思います。
最近の関心され過ぎが逆に居心地が悪い。ほっといてほしい
性転換手術やカウンセリングの費用を安くする。
上記の相互の選択肢を同時に推し進めるべき。
社会保障制度を性的少数者を前提に構築
性差別や性別役割意識をなくしていく
LGBTに関する個々の知識を高める
病気なので原因を探して治療する
行政がする必要は感じません。
多様性を認める

Q11 性的少数者に関して、お考えをお聞かせください。(自由記述)

性的少数者は、自分の性や性的指向について他の多数の人と異なると気付いた時から、非常に苦悩しています。自殺を考えた、孫を見せられなくて両親に申し訳ない、どうして自分は他と違うんだろうと、自分を責め自己嫌悪に陥っています。他の人とは違っていても、そういう風に生まれてきた自分を受け入れて好きになる事が、自分自身でも難しい人も沢山いるのだと感じます。それはやはり、社会的に「気持ち悪い」「病気」「異常」などと著しいとも思える拒絶の反応を示す人が一定数いる上に、日本においてはそれを特に問題視せず、むしろ煽るような社会的傾向が根強いからではないかと感じています。

同性愛や性的少数者は、ほとんどの場合病気や異常ではありません。一定の割合で、人間以外の多くの哺乳類の中にも存在しています。「同性結婚を認めれば少子化が進む」「同性カップルに育てられた子どもは同性愛者になりやすくなる」などといった、軽率としか言えない意見を持つ人が一人でも減る事を願っています。「性的少数者に生まれたから、生きにくい」「好きな人と家族になれない」という世の中では、先進国とはいえないと思います。少なくとも今の日本は、性的少数者にとってはまだまだ非常に暮らしにくい国だと感じています。異性愛者にとって当たり前の幸せが、性的少数者にとっても当たり前に実現できる社会になってほしい。将来自分の子どもが性的少数者だった時、社会が自分の子どもを受け入れてくれないのは、とても悲しいし辛いです。どうか未来の日本が、多くの人にとって暮らしやすい国になるよう、期待しています。

性的少数者への正しい見方、配慮の仕方は確かに必要だとは思いますが、それ以前に性的少数者になったが故に不便さや不快感が生じるのなら根本的に女なら女、男なら男として生きていけるようなサポートがもっと必要だと思う。人間は女として生まれたら女として生きるのが道理だと思う。無理に押し付けるのは良くないが、女なら女として、男なら男として家庭を築いていくことがその人にとっての1番の幸せだと思う。

男か女しかいない世の中にそのような人たちがたとえいたとしても少数者であることは変わらないし、偏見や差別はなくなるわけではないと思う。差別や偏見は人の考え方見方の問題だから。だからその少数者として生きていくよりも、政府がどうだとか制度をつくるだとかよりも、元の性に戻る努力をしていく方が、そのサポートをしていくほうがずっとその人の為になると思います。

(全て否定する訳ではなく性的少数者が生活する上で外的に生活しづらい環境をサポートするのは必要とは思いますが)

性的少数者を理解して受け止めることは必要だけど、それを全てにおいて当然だと認めたら何でもありのおかしな世の中になっていってしまうと思う。

性的少数者のことも理解し、コミュニケーションをよく図りながら1つの道理、原理原則にしっかり基づいた会見が必要だと思います。

私の友人にもセクマイがいました。市内の某女子高に通っていたので、そういう子が結構普通に声を上げてました。その子がいうには「ここは普通に受け入れて、女の子同士の恋バナも普通に聞いてくれる友達がたくさんいる」と言っていました。勿論比率の問題で、高校のなかでも嫌だなんて子はいましたし、高校の外でも普通に接してくれる人はいると思います。が、しかし、その子にとって『普通』にされるのが一番嬉しいらしいのが、私はとても心に残っています。とりたててなにかするわけじゃなく、『普遍的権利として』認めてあげるのが一番なんだと思います。なので、なにもしないに入れました。

同時に、これまた高校の私の友人に、「レズとかないわ、無理」と一点張りの子がいました。

しかしその子は、クラス替えを経てレズビアンの子と仲良くなってました。その子に足りなかったのは『生身の人間である』認識でした。「レズとかノンケとかじゃなくて、その子はその子」と思うことが出来たようでした。

結局偏見は偏見でしかなくて、それを变えるのは難しい場合も簡単な場合もあると思います。それを少しでも摘み取る事ができたら、もっと普遍的なものになったら、いいのかなあと考えています。なので、『理解を深める』にも入れました。

行政がすべきことは、家庭のあり方の再考やどうしたら父母と子が楽しく幸せに暮らすことができるのかを考え、サポートする体制を整えることだと考えています。

現状、LGBTに属する人がいることは受けとめなければなりません。が、病気としてのトランスジェンダーと、性的嗜好としてのLGBは区別すべきだと思いますし、彼らだけの幸せを考えるのではなく、それを含めつつ持続可能な社会の構築に向かう中でどう対応すべきかを考えるべきだと思います。

また、人類学的な視点で、レズやゲイのカップルに育てられた子どもがどんな影響を受けるのかは回答を出せる段階ではないと思いますが、我々人間も自然の中の生き物なのだとしたら、動植物の繁殖や家庭社会形成の摂理に習うべきだと考えます。

人間様だけは違うというおこがましさが結果が、今日の自然破壊や地球規模の災害を多発させることがわかってきたのですから、なおさら慎重になるべきです。

渋谷区や世田谷区は、その意味で議論を深めることなく条例化を進めてしまいましたので、これで日本は成熟した社会に向かっているのかと嘆かわしく思います。千葉市は賢明であって欲しいと思います。

渋谷区の法改正後、千葉市が法整備に前向き、と言うニュースを見てとても嬉しく思います。自分がセクシャルマイノリティで、同性のパートナーとの将来を考えていますが、現状では暮らしにくい世の中だと思っていました。周りにも同じセクシャルリティの方はたくさんいます。現状では、配偶者なら受けられるサービス、行政に貢献できる事、将来の財産の事、またパートナーにもしもの事があったときの病院やその後の事、とても心配です。世の中と言うのは、何か決まっているものには従う風潮があります。ただ紙切れ1枚の書類でも認められていれば、病院であってもそこに入れたり、受けられるサービスもあります。また、職場や友人でも行政で認められているものは受け入れ易いものです。現状ではとても暮らしにくいです。私は女性です。この問題が出ると必ず少子化を訴える方がいて、反対を訴えます。ですが、結婚しても子供をもうけないと決める方々もいますし、私達は私もパートナーも既に子供がいます。同性のパートナーシップと少子化問題を一緒に考えないで頂きたい、と言うのがもうひとつの願いです。

嫌がらせなどの行為は、相手が性的少数者であるか否かにかかわらず、なくしていかなければならない。しかし、公衆浴場への入場などを考えた場合、自分は女性だと主張する男性は、男性の浴場に入るの嫌だろうし、周囲の男性も、男性に性的関心を持つ男性と一緒にいるの嫌だと思うだろう。女性も、いくら本人が女性だと主張しても、生物学的に男性である人が、一緒にいるの嫌だろう。結果として、本人が公衆浴場への入場を断念せざるを得なくなるのは、やむを得ない。この種の不便は多々あると思うが、これらは、本人が、容易に代替の手段を見つけられることであるので、甘受すべきである。このようなことは、多いと思うが、行政がわざわざ介入すべきものではない。また、法的な意味での家族制度は、次世代を養育していく基盤としての家族を法的に保護し、ある程度の支援を行うことを主たる目的としていると考えらることから、そうでない性的少数者の成人同士のパートナーをあえて保護する法的利益はない。互いに独立した成人として、独身者と変わらない取り扱いを行えばいいと考えられる。

Q10で「必要か」と聞かれたので、「わからない」とは答えたが、該当する人々にとっては必要な場合があるかもしれないので、「あってもよい」というのが正直な感想である。また、千葉市として何か取り組みをしようと考えているのであれば、まず学校、公共施設、公衆トイレなどといったところに「誰でもトイレ」を設置するといったのではないだろうか。また、男性、女性としているトイレを一つにし(すべて個室、洋式)、便座シートを用意するなど。このように学校や公共施設、公衆トイレから変えていくと、知識云々から入るよりもずっと一般に受け入れやすくなるのではないだろうか。しかし、そのことによって盗撮などの被害が出ないように対策も必要なのが、現在の世の中ではないだろうか。そのためにはもう少し人々の倫理観、モラルの上昇が必要な気がする。机上の空論よりも、外堀を埋めて落とす方が浸透していくのではないかと考える。思いつくのはここまでであるが、これは実際該当する人たちに話を聞いてみて不都合に思ったところを調査する方がいいのかもしれない。

啓蒙活動してもいいが興味ある人が見聞きして意見するのであって、興味ない人は見向きもしない。だからカミアウされても特に何も思わない。実際トイレに女装して化粧直してる明らかに男性と分かる人は普通にいるから、パートナー制度開始したんで利用してください、程度の告知でも構わないと思う。パートナー制度が開始されたとして、開始した啓蒙活動ではなく対象者に広く伝わるような告知をしてれば年月がたてば自然に対象外にもそういった制度があるんだと認識するだろうし。私は対象者ではないけどパートナー制度というものが存在するなら、アンケートなんて取ってないでさっさと制度始めれば良いのと思う。母子制度だとかもイチイチ対象外者に啓蒙活動しないでこういった制度あるから使ってねー、てやってるんだからそれと同じ。対象者に必要な新制度が始まっただけなのに、行政はビビりすぎ。

性的少数者と言えば聞こえはいいが、本来は「性的倒錯者」あるいは「異常性愛者」というべきであろう。性的少数者への人権はこれまで何の問題もなく保障されてきたのだから、特に社会制度としてこれらの人々を保護する必要は全くない。そもそも人権と結婚制度は全くの別物である。国家の構成単位は個人ではなく、子供を養育する家庭である。生物学的、倫理的に見ても、一夫一婦制の婚姻関係こそ自然である。わざわざ行政が同性カップルの権利を認め、保護する必要はない。同性パートナーを結婚と同等と見做すということは、人間がカタツムリかそれ以下の低級な存在に墮さしめることを意味する。行政の存在意義の一つは、健全な家族制度を維持し、社会的弱者である子供を保護することにあるのではないか。社会秩序に反する同性パートナーシップなど百害あって一利なし。

私は同性のパートナーと生活(同棲)をしています。カップルであるということが法的・社会的に「見えない」状態であるため、住居のことなど、これまでも生活しづらさを感じてきました。また、現在は互いに健康な状態ではありますが、もしも事故や病気になった場合、何の保障もないということが漠然とした不安感を募らせることもあります。したがって、行政が同性カップルに対して何らかの動き(支援)を試みることは大きな助けになると考えます。それと同時に、渋谷区の条例でもパートナーシップ証明書を発行するというだけでなく、職場や学校における性的マイノリティへの差別を明確に禁止しています。同性のカップルというあり方を社会的に承認するだけでなく、性的マイノリティへの差別や偏見の解消のために行政が取り組むことも重要だと思います。

食べ物の好みで、私は洋食が好きとかと同じレベルの話だと思います。わざわざ、言わなくてもよいし、聞かれたら嗜好を答えればよいだけで、だからといって、まわりの人に迷惑がかかるとかはないと思うので普通にしていればよいと思います。日本は昔から衆道とかありますし、寛容だと思います。当事者ではないのでなんとも言えませんが色々法的に整備されていてオープンにしても取り立てて大した事じゃないみたいな社会に、千葉市が先頭を切ってくれるとまたドローンの件やシムシティの件や、待機児童0の件やその他にも注目され、千葉市やるな〜と外部から注目されるのではないのでしょうか。成田空港もあることだし、世界標準レベルで同性パートナーシップに積極的でも、良いのではないのでしょうか。

性同一性障がいなどの発生メカニズムや人格に与える影響などを知識として正確に承知していないので、単純に受け入れられるものかどうか判断できない。
例えば被差別部落民や在日外国人などと同様に本質的にはマイノリティー以外の住民と何ら区別(差別)される必要がない存在であるならば、差別や抑圧されることがなく人として尊重されるべきであり、それが実現していないのであれば、他のマイノリティーの先例にならって、正しい教育、普及・啓発などを進め、差別や格差などを取り除くべきである。
外見、言語、習慣などに人としての問題があるのではなく、多数者のそれと差異のある少数者を差別し格差を生むことが、反社会的な集団の発生などにつながり社会に悪影響をもたらす原因となると考える。

当事者の方たちは、生きにくさの中で生きているのだと思いますが、根本的に性的少数者になぜなるのかの原因を医学的、心理的、人類学的観点から見つめなおすことも必要なことだと思います。性的少数者の人口が増加していく傾向にあるならば、社会的に制度も父、母としての家族という関係性も全て変化してきます。そこに教育の現場が対応しきれぬのかと思います。社会人になって、仕事をするには、一人の人間として生きていくには、自己責任で生きられると思いますが、親子、家族、人が育つ関係の中で、問題に対応できるのかと思います。どんな生き方でも人は自由だと思うけれど、何かが崩壊していくと思います。性的少数者の存在に寛容になりすぎるのが。

婚姻というものは新たな家族をなすものであり、そこに子孫を残すものとするという点で重要なものであると考えます。お子さんが出来ない夫婦でも男女であるかぎりその可能性が100%ないとは限りません。その観点から考えて同性婚はやはり決して主流にはなりません。
もちろん偏見からくる差別はなくすべきだとは思いますが、一般の結婚と同等であるなど声高に主張することは逆に反感を得て差別を助長することにならないでしょうか。
これはマスコミなどの伝え方にも問題があるのかとは思いますが「すべて認めるべき」ではなく「ここまでは認めたら」という提案を議論し、しっかりと広報することがお互いの歩み寄りを促す方法だと思います。

わたしはLGBTのLとして、そしてFTXとして今生活しています。現在のところ衣食住最低限は不自由なく生活は送れていると思いますが、いざというときにストレートの人たちと同様に権利が保障されているかという点、それは否です。パートナーが事故に遭った時、急病に倒れた時、わたしは単なる友人でしかありません。
そして、友人たちも理解があると口では言いますが、実際に自分の隣にいる人がLGBTのどれかに当たるとは夢にも思っていない。あくまでフィクションでしかない存在のわたしたち。パートナーシップ証明書は権利を保障するだけのものではありません。わたしたちの存在をより身近に感じてもらう。そのことにも繋がるのです。

私は市内に住んでいるトランスジェンダーです。
性同一性障害(GID)で2年前に戸籍の性別を変更して現在女性として生活していますが、千葉市においても、もっと積極的にセクシャルマイノリティーに関する問題に取り組んで頂きたいです。
特に性同一性障害は子供の時から自分の身体に違和感を持ち始めている事も多く、そしてその事を誰にも言えず悩んでいる子も多いと思います。
確かに絶対数から言えばそんなに多くは有りませんがそれでも当事者にとっては死ぬほど辛い思いをしているケースがとて多いのです。
人権に関しては個人ではどうにもならない場面が多く行政の力が必要です。

生物学的な異変なのか、病気なのか原因をもっと厳密に精査して頂きたい。もっと医学的な研究を行って、将来遺伝的にも増加傾向にあるのか、子孫を残すという生物としての使命に逆行しないのか？恒久的社会的繁栄に影響することに、安易に制度等を変え、申請のみで、容易に資格を受けられるよう、促進を図るべきではない。外国人を含めて、人口の多くがそのような人達で占められた場合、その町の運営に影響はないのか？希望者には東京への転居を勧めあげればよい。人口減の町では将来そのような人達を受け入れざるを得ないのかも知れないが、現状では反対です。

私は千葉市在住のレズビアン当事者です。住んでいる市でこのような動きが出たことをとても嬉しく思います。
まずは、このアンケート自体が、当事者が回答することを想定していないこと(身近に、とありましたが、孤立している当事者であれば「身近に」はしません。)から、当事者が存在しない存在であるとの認識を持たれているのだと、当事者の置かれた困難をそこから推測していただけたらと思います。存在しない者として扱われていますが、私たちは確かに千葉市にもいるのです。そして、いない者として扱われることで日々少しずつ心をすり減らしています。

性的指向やジェンダー意識は生まれつきのものであり、「足が長い」「目が大きい」などの他の身体的特徴と同じように、本人がどうこう出来るものではない。それを、自分とは違うからと責めるのはおかしいことであると皆が気付くべきである。この件に関わらず、学校教育において、科学と倫理感に基いた人権教育が必要であると感ずる。
確かに生物としては異端であるかもしれないが、人間は動物ではない。こういった多様性を認め折り合いをつけた社会を築けることこそが人間の人間たるゆえんであることを教育すべきと思う。

自分自身が当事者です。今はまだ学生の身ではありますが今後結婚や何かがパートナー含めお互いに起こった際など医療面行政面多々不安や整備不足な面があると考えます。人を愛する、という点では異性愛者と同類のはずなのになぜ同性という点だけで偏見が生じるのか理解が難しいです。全マイノリティ者の偏見や差別をなくす、というのはマイノリティも多々あるため難しいとは思いますが、しかし少なくとも同性愛者やGID、Aセクシャルの方などに関する偏見や差別は何をそこまで恐れているのか、という疑問が生じます。

性的少数者に対して渋谷区や世田谷区で認めたような制度は必要ありません。性的少数者への人権問題とは別ものです。家族とは男性と女性が結婚して子供を生み育て社会を発展、繁栄させるためのものです。少子化が叫ばれている昨今で男性同士、女性同士の結婚では社会の発展、繁栄は望めません、古来から結婚は男女間で行うものです。男性同士、女性同士のカップルに対して差別や偏見から守ってあげることが必要ですが、結婚と同等の権利を与えることは矛盾しています。社会が混乱します。

性的少数者に出会ったことはないからよくはわからないが、生物学的に同性と付き合いことで私はデメリットを受けはしないと思う。結婚をしない人が増える時代だが、結婚をしても子どもをつくらない人もいる。作れない人もいる。そういう意味では結婚してもゲイやレズは子どもを生物学的には作れない。しかし、子どもを作るために結婚するわけではない。好きな人がいてその好きな人と同棲したり、病院で会うことで支障が起きている現実があるのならばこたえてあげるべきだと思う。

自身がLGBTではあるものの、生活しにくいと感じたことはない。法や制度は異性愛者と同等に整えられるべきではあるが、その他の部分についてことさらに騒ぎ立てるものでもない。いわゆるLGBT活動家は自身の弱さや疎外感を社会に責任転嫁している。たとえ異性愛者であったとしても同じことになっているはずで、LGBTだから受け入れられないと騒がれるのはそうではない私にとっては逆に迷惑。「LGBTってあんな主張ばかりしてるのか」と思われたくない。

同性パートナーシップについて。性的少数者に関する問題と、同性婚の問題は、別問題として考えるべきだと思う。同性婚について考えるならば、必然的にAIDなど、生殖補助医療に関する問題も出てくる。これからの未来を担う、子どもたちのことも考えて、これらの問題は考えるべきである。親が子どもを持つ権利もあるかもしれないが、子どもが親を知る権利や、安全に養育される権利が、『子どもの権利条約』によって、あることも忘れてはならない。

社会生活や将来への不安など、LGBTにとって今の世の中は生きづらい環境だと感じています。法の整備が遅れていることで、人間としての価値をも見失うこともあります。普通の社会生活って何でしょうか？人間の尊厳という基本的なものさえも認めてもらえない場面にも遭遇します。いち早く、法の整備を望みます。夫婦同様、パートナーとして認める法があれば、自分達も含め、自分の家族も安心して社会生活を送れる世の中になると感じています。

性的少数者だけじゃなくても、何をしても少数派ってのは常にいるわけで、大事なことは少数派を尊重するって事よりは、少数派を公共性から排除しないって事。少数派であることの自覚はあるであろうし、パートナーシップ証明書があるんなら、他にいくらでもある少数派を認めないとおかしくなるので必要ないと思う。実のところ、今やセクシャルマイノリティの人はメディアでの活躍も多く、影響力もあるので、行政の人気取りにしか見えませんがね。

人権を尊重して人間関係を持つことは大切なことだと思いますが、結婚問題は全く別のもだと思います。またLGBTとTは全く違いますので、別に考えて対応してほしい。Tの方は、医師により病氣と診断されている方です。同性パートナーシップの証明書の件ですが、千葉市では、親子3代夏祭り(親子3世代が幸せに暮らせる街づくり)など家族を大切にする市のイメージがありました。このような条例を進めているとしたら非常に残念に思います。

表立って公表出来ない事案として扱われてきてしまったために目に見える数字では「少数派」とされているけれど実際には「少数」ではないと思います。自然界でも一定数の同性愛行為が見られます。同性愛は不自然であるという考えが早く改まると良いと思います。また、同性愛を非生産的として少子化政策に託けて否定される事も無くなってほしい。むしろ同性カップルを公的に認めて任活への援助をしてくれれば少子化対策にも繋がると思います。

性的少数者という言葉もあまり好きではありません。ただ、単純に人を好きになるということに変わりがなく、対象の性が異なるだけで、様々な意見が飛び交うのも疑問に感じます。人を好きになる気持ちはとても素敵なことでそれが異性愛でないというだけで隅っこに追いやられてしまう日本の風潮が好きではありません。LGBTに限らずもっと個人が自分を誇りに思い、どんな環境であっても堂々と生きていける国であってほしいと思います。

パートナーと同棲をしている当事者(レズビアン)ですが、保険や住宅購入、歳をとってから様々な問題にぶつかると思います。実際に賃貸を探すときにも「ルームシェアは駄目」と断られた物件もかなりありました。若者はだいぶ理解が進んでいると思います。私自身の周りの友人は全て理解してくれているが、やはり親や年配の方にはあまり理解してもらえません。年配の方にもLGBTというものを理解してもらいたいです。

LGBTの人たちにも公共の福祉とのバランスの中で、憲法が保障する基本的人権が認められなければなりません。しかし、同性婚問題は、LGBTの人権問題とは全く別次元の問題だと感じます。同性婚の是非は、婚姻制度の趣旨から判断すべき内容です。古来から結婚は、男女の間で行われるもので、私たちに生命が受け継がれ、未来に向けて受け継いでいく使命を持っています。この事をもう一度、顧みていく必要があるといえましょう。

私自身がマイノリティですが、学校・会社などではカミングアウトをしていないため周囲の人間は「マイノリティなんてこの場所には存在しない」と思っている人が大半です。当事者が声をあげてから制度を整えたり理解を深める動きをするのは遅いです。もっと積極的にマイノリティへの偏見や差別をなくす環境づくりが必要です。そしたら安心してマイノリティの人も自然に、周りと変わりなく過ごせるのではないかと思います。

<p>性的嗜好を理由に差別されてはならないが、健常者(適切な言葉が見つからないので便宜上使うが、性的少数者が異常だと思っているわけではない、念のため)と全く同じ扱いを望むのは無理があるのではないかと同性カップルと親友の区別はどうつけばよいか？結婚の代わりに養子縁組でよいのでは？健常者が何も我慢していないわけではないので、彼らにも多少は譲ってもらわねば制度そのものが成り立たないだろう。</p>
<p>性的少数者だからといって、私個人は対応を変えるつもりはありません。ただ、身近にそのような方がいないので、その方たちの苦労や思いを、マスコミ報道を通じてしか分かりません。法的扱いを変えるには、法改正が必要で、時間がかかるでしょう。そういったこと以外で不利益を被ることがあって、条例制定などで対応できることであるならば、対応を検討していただいた方がいいのだろうと思います。</p>
<p>性的嗜好が如何であろうと個々人の自由であると思いますし、いわゆる性的少数者であることを表明することも自由でしょうし、私自身はそれ自体には偏見は持ちませんけれど、生物的に再生産できないカップルに新たな社会的権利や保障を与えることまでは必要ないと考えています。むしろ、この種のカップルが社会的権利・保障・地位を希求するならば、通常よりもより多くの税負担を課すべきとさえ考えます。</p>
<p>性同一性障害についてはずいぶん前からドラマや有名人のカミングアウト等でかなり理解はできている。しかし同性愛については手助けしてあげたいと思うが心がついていけないところもあり、隣の家に、同性カップルが引っ越して来たら戸惑うと思う。同性で手をつないでいたり、ましてや近所の公園で同性同士のキスシーンをみてしまったとしたら、動揺すると思うし、マイナスの感情がわいてしまいそうだ。</p>
<p>性的少数者というのは個人の問題であるので、悩んでる方にカウンセラーを付けてサポートをするなどは良いと思います。が、地方としての制度や環境の整備をし、周りを変化させようというのは若干不自然に思います。むしろ地方の問題として考えるならば、少子化問題を積極的に解決できるよう、異性の結婚の促進や学費の補助、子供にとってより良い生活環境を整えるなどの努力をされることを望みます。</p>
<p>自分はFtXと今は自認しています。今まで性的少数者だと思ったことはありませんでした。しかし、あらゆるところで感じていた違和感が、LGBTという言葉によってある程度納得できたのも事実でした。こういった無意識のストレスが存在するのです。自分は大丈夫でしたが、ストレスに耐えられなくて苦しんでいる人々がいます。それを救えるのは、社会的なサポートや取り組みかもしれません。</p>
<p>性的少数者は家庭の崩壊や不安定さの増加による結果だと思います。実際離婚率の低い時代や、少子高齢化ではなかった時代には性的少数者はほぼ認知されていませんでした。離婚率の増加や家庭内での何かしらの不安定さによってそのような方が多くなったと考えます。そのため同性パートナーシップの証明書の交付をすることは家庭の崩壊を促すことにもなる可能性があるため反対です。</p>
<p>なぜ千葉市が子供達に悪影響を及ぼす同性婚を認めるような政策をするのでしょうか！？その政策自体必要ないことだと思います。勝手に大人が決めて、結局苦しむのは子供達です。渋谷区がやっているからという安易な政策をしないで、未来に責任を持って政策をして頂きたいです。学生の私でさえも同性婚は間違っていると分かるのに、なぜ大人がわからないのでしょうか…。</p>
<p>一部の方がもつ特異性と思っていたが、人としての生きていく社会環境は皆等しくあるべきだと思います。つい最近のNHKラジオでも、生番組でリスナーからの意見討論をしていたが、弱者への配慮と思いやる心を強調していました。ごく自然なこととして、相互理解を深める機会を構築することが行政の役割だと思う。どんな分野でも弱者への思いやりは貴重であり大切なことです。</p>
<p>私が思うには、LGBTの人たちにも公共の福祉とのバランスの中で憲法が保障する基本的人権が認められねばならないと思います。しかし渋谷区の条例のような同性婚問題は、LGBTの人権問題とは全く別次元の問題だと思います。同性婚の是非は、婚姻制度の趣旨から判断すべき問題だと思います。マスコミが人権問題のような報道をしていることが問題だと認識しています。</p>
<p>自分の身近なところに性的マイノリティーがいた場合、すぐには無理かも知れませんが、受け入れたいと思います。／性的マイノリティーの一部は平均より教育水準が高く、世帯収入も多いと聞きます。性的マイノリティーの方々に千葉市を居住地として選んでもらえば自治体の発展にもつながるので、同性パートナーシップの証明書の交付等を行ってもよいのではないのでしょうか。</p>
<p>私の友人にも現在は公にカミングアウトはしてないものの、社会環境がカミングアウトできる状況になってほしいと願っている人がいます。自分本来の内面とは違う自分を演じるのは相当なストレスではないかと思えます。自治体がそういう彼らを法整備などで支援をする姿勢を見せることが、地域社会の偏見を変えていく方向につながればよいと思います。</p>
<p>「同性もしくは両方の性を好きな人、生まれた性に違和感のある人はおおっぴらにそれを外に発信してないだけで実は沢山いる。」という事をみんなに知って欲しいだけで、特別扱いして欲しい訳ではないので、千葉市がこれからLGBTについて何らかのアクションを起こそうとしているようだが、そこをちゃんと理解して進めて欲しいです。</p>

性的少数者も、異性愛者が異性を愛するのと全く同じように、同性を愛しています。テレビなどの影響から、性的少数者＝変な人のイメージが根付いていますが、普通に生活して、普通に働いている性的少数者も存在しています。彼らが生きていく上で、異性愛者の方々と同じような権利を認めていくことは、ごく当たり前、普通ではないでしょうか。

何故少数者と言われるような心や身体になったのか？、とってしまいます。はるか昔から子孫を残すために生物は生きてきたのではないのかと…。だからといって全否定をするつもりはないのですが、ただただ不思議だなあと感じてしまいます。世の中は全て男と女の区別でしか出来ていないので、もう少し柔軟になればいいのかもしれない。

世界に比べて日本は性的少数者にとって住みやすい国だと思っています。あくまでも私個人の考えですが、最近耳にするニュースでは性的少数者が声高に権利を主張しごり押ししているように感じます。お互いに譲りあって我慢すべきところはお互いに我慢しないとどちらか片方が一方的に我慢を強いられるようでは理解しあえないと思っています。

「性的少数者は、13人に1人(7.6%)との結果が出ました」とのことだが、カミングアウト出来ないが故に正直に回答していない人も一定数いるのでは？と思う。また、今後仮に日本で同性婚が認められたとしても、職場への報告義務が発生するのであれば、結婚自体を躊躇ってしまうと思うので、結婚する人は少ないだろうとも思う。

当事者じゃないのでわからないが、恐らく想像以上に苦しい生活をおくっているはず。それをPRと取ると倫理的に難しいが、そういった方にも「千葉市なら住みやすい」と思ってもらえるような行政の対応を希望します。自分でも用紙に記入する際、男女の欄しかない世の中には丸を付けるのに抵抗がある人も存在するんだなあと思う。

以前に「(旧)男性」先輩が性的少数者であることをカミングアウトしたときは非常に驚いたが、だからといって白眼視することはなかった。それまでの付き合いで人として信頼できる相手だったから。友人や知り合いなどある程度の距離感がある人は受け入れやすいと感じている(一般論もしくは親しすぎる家族などは葛藤すると思う)。

人は誰を好きになるかなんて好きになるまでわからないのだから、普通のことだと思う。私も今後誰かを好きになれば少数者になるかもしれないし、ならないかもしれない。子供を設けたらその子が少数者にあたるかもしれない。だから、未来がどうなったとしてもパートナーとの生活に不便がないような法の整備だけをお願いしたい。

証明書はとてもいい働きだと思う。けれど、同時にそれは公にカミングアウトをすること。当事者がその証明書の制度を利用したくても、実際に使用する場面で(病院、賃貸契約、役所など)ひとの目が気になるので証明書申請にはいたらないかも。公務員をはじめとする各職業種に、性的少数者研修をして認知してもらいたい。

自分の子であれば、すんなり受け入れる事は難しいと思う。そのほかであれば、人権を尊重する上でも理解しやすい。性的マイノリティが13%もいるのであれば、パートナーシップの証明等の行政の早急な対策が必要である。どういう面で法的な不備があり、どのような差別があるのか理解したいと思うが実際のことが分からない。

私の友人は高校の時に医師の診断により性同一性障害だとわかりました。本人からその後連絡はありましたが、私自身はその人への感じ方や対応は変わりません。人が段々成長し、変わっていくように、彼らも自分を認め変わっていくだけです。私は変わっていく人たちに合わせた理解と取り組みが必要なのではと考えています。

憲法第十三条に「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」と記されています。日本人は個人個人を最大限尊重されなければいけないということだと思いますが、これがすべてだと思います。

自分自身がBであり、Tであるため、自分自身が実感しています。まず、このアンケートがセクシャルマイノリティに関してのものでありながら性別記入欄の有ることに對して非常に違和感を感じます、アンケートの製作担当がまずセクシャルマイノリティ(特にトランスジェンダー)に対しての理解が全く感じられません

正しいとか間違っているとか、いいとか悪いとか、当事者でない周囲が判断することではない。当事者である人たちが、暮らしやすく、生きやすくなる社会の実現を望みます。
学校の制服の選択や、更衣室、トイレの選択など、性差を意識せざるを得ない場面が減るか、個人の意思が尊重される学校、施設作りを望みます。

わたしは当事者ですが、両親へのカミングアウトまで済ませています。しかし将来パートナーと過ごすことになった場合、事故や病気でICUなどに入ったときに「家族」しか面会ができないというのは「結婚」をしなくてはならない大きな壁です。そういった理由から、同棲パートナーシップ条例や同性婚を賛成します。

千葉市にも実施するようなことは、反対です。人間の尊厳、家庭の崩壊の崩壊、祖父母父母子供孫の先祖が残した受け継がれていくのが、失われていくと思います。
性倫理の崩壊に繋がっていくように思います。性同一性障害の方はまた、とても大変なお立場です。同性愛者とは、別問題です。

偏見はなかなか無くならないと思います。でも、たとえLGBTのことを嫌に思った人がいたとして、なぜ攻撃しなければならないのでしょうか。そっと見守ることが、なぜ出来ないのでしょうか。LGBTの方が身近にいるわけでもなしに、その概念ごと否定している人々の姿が悲しく映ります。

精神的なことと身体的なことは違う。どんなに思っても同性では子供をもうけることはできない。夫婦という定義がそのための要素の一つだとするなら、パートナーシップの意味合いが不明なものになる。例えば家族になるという養子縁組に近いものになるのか、など、定義するのは難しい。

学校で「ひょっとしてコッチ系か？」などと子ども同士や時には教員がからかう場面は誰も見たことがあるのではないのでしょうか。肌の色や身体障害よりも外見で見えないから、身近にいないように感じる人が多いのでしょうか。是非、教員研修など教育から取り組みをしていただきたいです。

同性パートナーに焦点を当てているが、同性愛だけが性的マイノリティではないので、その辺の理解をしてほしい。性別変更者もいる中で、戸籍変更しないと結婚できないなど、さまざま問題がある。戸籍変更には時間がかかるため、その途中段階でもさまざま出来るようになると良いかと。

人権は尊重されるべきであり差別は反対。ただし現在の日本国では法整備や社会の中で普通に暮らせるルール(書類等で性別申告を行うなど)がままならない部分が多く、Q10のような同性パートナーシップ証明書はその自治体内に閉じた制度に過ぎないため、あまり意味がないと考える。

ゲイ、レズビアンは一般的にも知られていますが、わたしのようなバイセクシャル、そしてXジェンダーはあまり知られていません。性別の記入欄が「男or女」であることがとても辛いです。わたしは男でも女でもないのです。性別記入欄に「その他」の選択肢が増えれば嬉しいです。

LGBTに対して否定的な行政や議員がいまだにいるが、わからない物に対して攻撃的に接するのは、文化的に未熟で、知識不足のせいではないかと思う。個人の見解としての好き嫌いはどちらでも良いが、行政や議員には自身に対してLGBTに関しての啓発義務があると思う。

少なくとも偏見は減少に向かったとしても無くなることはないと思う。故に少しでも負担を減らすためにも行政のバックアップは不可欠であると思う。それは無闇矢鱈な啓発活動等だけではなく同性カップルの証明書など現実社会から孤立させないための取り組みだと思う。

証明書の交付ではなく、一般的な婚姻届で認めても良いと思う。私は性的少数者ではないですが…そういう方にとっては、きっと同じ扱いをしてほしいと思うので…。結婚しても同性だと子供はできないけど、同じ扱いをしない限り、差別していることになると思います。

生まれながらの自分を否定されることは大変辛いことです。異性愛が当たり前、結婚するのが当たり前、子供を作るのが当たり前という「当たり前」に少し立ち止まって疑問を持つこと、それほ思いやりではなく想像力の問題であり、醸成できるものだと信じています。

1人1人の性はあたりまえに違っていて、いろんな人がいるといます。それを分かってほしいし、みんなで考えていきたいです。今の社会の状況は非常に生きにくいと思います。LGBTの人にとって生きやすい社会は全ての人にとって生きやすい社会だと思います。

実際のところ、性的少数者の方が何を望み、何に苦しんでいるかわからない。自分のことをネタにする人もいれば、意識が強すぎて社会にあれもこれも認めろと過剰に感じるほど声をあげる人(自身が性的少数者ではない人も含む)もいるし、考え方は人それぞれ。

性的少数者と言葉じたい偏見を感じる。健全な姿とされている位置づけからの考え方であるならば、脳と身体のバランスが違うという先天性の障がいではないのかと考えるべきだと思う。障がいも個性として人としての人権尊重をもっともっと啓発すべきである。

知っている限り周囲にはいないが、もしかしたら隠しているだけかもしれない。日本は、なんとなく人と違うこととして公表したがる、また偏見もあると思うので、もっとオープンな社会になればいいと思う。決して特別なことではなく、十人十色なのだから。

銭湯などに盗撮目的で女装で入ってくる男性もいるので、性的マイノリティの人に対して、それと気づかずに通報したりしてしまわないか心配。なので、どんな性別でも使用できるセキュリティもしっかりした個室家族風呂などを公共施設に作ったらいいと思う

自分と違うもの、または少数なものを異質ととらえることは仕方ないかもしれない。私はあるきっかけで知り合ったゲイの友人を通して、そういう感覚が人々が平和に暮らすことを阻んでいるように思えた。彼らを排除する理由などどこにもないと思う。

昔から存在していたが、社会の変化(入院時保証人が必要など)に伴い声をあげる必要が出ただけと感じている。なんでもそうだが、訴える人々の要求を全て受け入れるのが受容ではなく、互いに理解し譲歩したり交渉したりするのが受容ではないか。

<p>気付いたときには友人にいたので偏見はありません。カミングアウトしやすい場所以外ではあったことがないので苦しんでいる人も多のではと心配になります。自然にカミングアウトできて、自然に受け入れられる世の中になることを願っています。</p>
<p>言葉や、考えについては理解しているつもりであるが、実際に直面してみるとどういった対応をとるかわからない。あと、それを否定するのも、一つの考えだと思うので、LGBTを否定する人を否定するのも、逆差別になるのではないかと思う。</p>
<p>憲法の保証する基本的人権は認められるべきと思いますが、同性婚問題は人権問題とは全く別次元の問題です。また、Q2設問は、一つの調査結果だけで設問されており、千葉市の実態を調査されたうえで、アンケートされるべきだと思います。</p>
<p>日本人は島国根性で少数者を排除してきた名残があるように感じる。同じ人であることに変わりがないことをちゃんと認識すべき。人が人を思いやるのに多数少数も関係無く性別も関係無いことを理解出来ない方が人として???だと思う。</p>
<p>性的少数者に猟奇的犯罪者が多いという海外のデータもある。諸手を挙げてすべてを受け入れられるわけではないが、かえってオープンにしてはっきりさせておく方が行政や治安のためにも、管理しとらえやすいのではないかと思う。</p>
<p>基本的に個人の問題なので日常生活においてはそう考えなくても不都合は無いのだろうがそうもいかない時もあるのだろうと思うのだが具体的にどういう時がそれなのかは身近にいない(ように思う)のでよくわからない。</p>
<p>嫌いなわけではないですが、子孫を残すことができないカップルが増えてしまうとますます少子化が進みます。なので、現状でもよいような気がします。それよりもっと時間やお金を割くべき重要なことがあると思います。</p>
<p>そういう人もいるのだなということを認めることが必要だと思います。マイノリティー同士の結婚などはゆがんだ関係でないということを証明するのに、医師による意見書やサポート・アピールが必要ではないかと思います。</p>
<p>当事者として、自分がそうであると気づくまでの時間が長く、苦しさがあつた。“学校や職場でのメンタルヘルス”の問題と同様、見た目ではわからない苦しさと知られると、よりよく理解されるのかなと思う。</p>
<p>丁寧な対応が必要だと考えます。周辺自治体の動きなどを参考にすることは大切ですが、右習えではなく、何が一番必要なのか、双方の(反対の方もいることを踏まえ)意見を含めた動きになることを期待します</p>
<p>受け入れてくれる人、受け入れられない人双方がいる現実には性的マイノリティの方は考えて欲しい。ただ、それが差別や偏見に繋がらないような教育は必要だし、受け入れられる社会であるべきだと考える。</p>
<p>自分が性的少数者でなくてよかったと思ってしまうので、彼らには非常に生きにくい社会だと思います。わからないのは仕方なくても、そういうひとなんだと自然に受け止められるようになるといいです。</p>
<p>30代の女性同志で結婚式を挙げたカップルを知っています。二人ともアクティブな活動をする人で自信にあふれ堂々としています。その反面自信の持てない人はこんなに堂々とできないだろうと思います</p>
<p>とても難しい問題。ネットではLGBTに対する心もとない暴言でありふれていた。同じ日本人として恥ずかしい。排害思想の人はLGBT問題だけでなく、他の問題についても排他的なのかと思った。</p>
<p>恥ずかしいとか隠そうとすればするほど、余計にマイナスに見られやすいと思います。堂々としたりオープンにして生き生きとしたいらいつか誰も気にしなくなる社会になっていくのではと思います。</p>
<p>一つの個性として受け取っている。ただ、身内が同性と結婚したいとなると戸惑うのはあると思う。男性で本当に心が女性の方と、単に女性の格好をするのが好きな男性は明確に分けて欲しい。</p>
<p>男、女、夫婦という枠組みに社会がこだわりすぎるからマイノリティを排除したり、牽制したり阻害しようとする意識が働く。さらに役所の前例なきは排除という考え方が問題を大きくしている</p>
<p>LGBTも一括りにできないさまざまなカタチがあるので、それに対応できるゆるやかな支援が必要だと思います。また、カップルとして、特別扱いしないことも望んでいるのだと思います。</p>
<p>社会は、たまたま2つの性別できっぱりと区別していますが、本当のところは、「個性」のひとつであって、2つに分かれるものではなくて、連続的なものなのではないかと感じています。</p>
<p>少子化問題と混同してる人がいますが、そもそも彼らは子供を持つ層ではありません。海外でも同性婚成立前後の出生率には変化はありません。この辺りの啓蒙が必要かと思われます。</p>
<p>少数意見でも大事にすることが民主主義だが、あまりにもそれに捉われすぎだと、生活しづらい。女性専用車両があっても男性専用車両がないなど、不公平になり、本末転倒となる。</p>

<p>いま、性的少数者の方たちがたくさんいるということが分かっているのなら、渋谷区や世田谷区で実施されている取り組みが広がっていくことは自然な流れのような気がします。</p>
<p>自分がそのような立場にないので理解するのが難しいが、そもそも病気なのでしょうか?病気ならば治療が必要だと思います。ともかく正常ではなく異常な状況だと思います。</p>
<p>時代の趨勢だと感じています。医療行為の承認や保証人などコンプライアンスを考慮すると、親族などに頼れない場合、証明が必要になってくる流れは必然だと思っています。</p>
<p>同性パートナーシップ証明書だが、結婚制度とは異なるものだというのであれば、戸籍上異性間のカップルにも適用すべき。性同一性障害で(心は)同性愛者という人は多い。</p>
<p>LGBTという言葉自体、十把一絡げな感じを受ける。それぞれの置かれている状況は様々で、抱える問題も違っている。まずは一人ひとりが想像力を働かせることが必要。</p>
<p>市議会や県議会などの議員の方が、よく昔の価値観で否定的な見解を述べることがあります。まずはそれらの方々に良く理解するように啓蒙することが必要だと思います。</p>
<p>同性同士の友情は、異性との結婚・同棲とは全く違う。同性カップルが被る住宅の賃借等でのマイナス面は、行政が介入するのではなく、当事者の民間同市で行えば良い。</p>
<p>日本では暮らしにくいので、アメリカなど海外に居場所を求める人も多い。もっと勇気を持ってカミングアウトしてもらえれば、周りも理解するようになると思う。</p>
<p>自分の周りにはいないし、差別や偏見も持つようなことはないと思うが、実際にかかわるようなことがあったとしたら正直理解するには時間がかかるかもしれない。</p>
<p>病気のようなものなので、本人達は気の毒だが、本来の正しい性的認識ができるようになって欲しい 渋谷区のパートナーシップ条例は認められてはならないと思う</p>
<p>今は差別をする人より、しない人の方が多いと思うので、堂々と生きてほしい。 こちら、大丈夫だよということをもっと発信しなければいけないとも思う。</p>
<p>最近、好きなイギリスの俳優がゲイだと知りました。日本に置き換えると、まだまだカミングアウトしてる方は少ないですし、一般の方は尚更だと思います。</p>
<p>社会的にも性的マイノリティの人が居というのが認知されてきて、「差別」というのは少なくなったと思うが、内面的な「偏見」は変わらずあると思う。</p>
<p>Q10に記載の内容であれば制度を導入しても構わない。但し、相続を認めるなど、現在の法律の解釈変更等とは別の問題として対応すべきと考えている。</p>
<p>身近に性的少数者がいないので実感がないが、その方の意見等を資料などで見る機会があれば市の取り組みについても実施の有無を回答できると思います。</p>
<p>若い方ならともかく、中高齢者へ理解を求めるのは大変だと思います。忘れた頃にたまにではなく、頻繁に啓蒙活動を行う必要があると思います。</p>
<p>性的少数者への理解不足が、様々な問題の根本にあると思っています。理解を進めるためには、行政の率先した動きが切っ掛けになると思います。</p>
<p>個人の自由は尊重するが、社会的に特別扱いするのは違和感がある。猫になりたいと思うなら猫になってもいいのか、自然を尊重すべきだろう。</p>
<p>テレビ等で「おネエ系タレント」を面白いコンテンツとして扱い続けていることが一般の人々の正しい理解を妨げている一因になっていると思う</p>
<p>様々な考えの人たちが居るので、みんなの理解を得ることは難しいと思いますが、性的少数者の方たちが、より生きやすくなれば良いですね。</p>
<p>現状では公表できる状態ではないと思う。誰にも言えずに生活している人が多いのではないのでしょうか。13人に1人というのは驚きました</p>
<p>声を上げられない当事者のほうが多いこと、また、それ自体も性暴力の一つ、心理的・精神的暴力であることを忘れてはいけな</p>
<p>むしろ古い考え方のほうが恥ずかしい風潮になってきたと思う。LGBTという言葉すら不要なくらい、普通のことになれば良い。</p>

話題になっているだけで、全体的な見方からしたらもっとほかに資源を投資すべきことがあると思う。子育て支援とか手薄。
個人の嗜好なのでそれにとどまる限り自由。ただ、海浜公園などの公共施設をハッテンバにするのは勘弁してほしい。
周知への啓蒙も大切ですが、教育の場面への取り入れも必要かと思います(小学校での保健体育授業の内容充実など)
身近に感じたことがないせいか自分でも偏見を持たずに接しられるかわからないが少しずつ理解していきたいと思う。
最初は、抵抗がありましたが、マスコミやテレビなどで話題になって、少しずつ理解できるようになりました。
同性カップルの証明書は大きく取り上げられた割には実際に申請する人が少ないように思います。
同性愛者も異性愛者も関係ない。差別される意味がわからない。差別のない平等な世の中がいい。
早い時期にカミングアウトしてくれた人に対しては逆に驚きがなく、対応しやすいと思う。
自分の交際相手・配偶者を寝取られてもしない限りは、ひとさまの性的指向なんて興味ない。
SNSなどで見聞きして、今の社会は性的少数者に対して偏見が多いと思うようになった。
人類の存続の観点からは正常とは言えない。本人や社会が脱出する努力をすることが必要
大変な立場は分かるが、行政が支援すべき事は虐待や貧困など他に沢山あると思う。
渋谷区の条例のようなものをつくって、一般人の自由を束縛しないで欲しい。
男性、女性と交流することよりも、人間同士の付き合いと考えたい。
身体障害者と同じなので、家族での保護が大切ではないかと思ってます
理解はするが、家族形態、少子化に歯止めがきかなくなる可能性大。
個人的趣向に公的機関は積極的にかかわらないほうがいい。
異常反応せずありのまま周囲は受け入れるべきと思う。
性的少数者に対して差別はないと思う
それぞれの個性であるので認めたい
人間、生き方や考え方は自由です。
よくわからない、性癖とどう違うか
お互いに認めあう。